

キラリ☆ 中野のチカラ

株式会社コシナのレンズ



営業開発本部 広報担当
佐藤 和広さん

営業開発本部 光学設計担当
島田 博和さん



▲流星観測に使用されているレンズ



信州中野から

宇宙へ旅立った技術

今年の3月、国際宇宙ステーション（ISS）に流星観測カメラが設置されました。このカメラに取り付けられているレンズは、中野市に本社を置く株式会社コシナで製造されたものです。今回は、このレンズを製造したコシナのスタッフにお話を聞きました。

○「メテオ」プロジェクトとは

千葉工業大学惑星探査研究センターが行っているプロジェクトです。彗星や小惑星から放出されたちり（流星）は地球の大气に突入すると高温高圧になって発光します。この時、流星が放つ光をカメラに記録し、光の種類を調べることで流星が放たれた母天体の特性を知ることができます。雲などの観測に邪魔なものがない宇宙空間だからできる世界初の試みで、彗星・小惑星探索に匹敵する科学的成果が期待されます。

○プロジェクトへの協力

流星観測カメラの打ち上げは、2回失敗がありました。私たちは、その打ち上げのニュースを聞いた時に、初めて当社のレンズがメテオプロジェクトに使用されていることを知りしました。その後、私たちから、

プロジェクトの条件にあったレンズを作成するとプロジェクトチームに直接連絡をとり、協力することになりました。それまでは、自社で市販しているレンズに、ワイドコンバーターというレンズをつけて、通常より広い範囲の映像が撮れるよう工夫がされていました。市販のレンズは遠近で使えるなどのバランスを取る調整をしています。流星観測用は遠くを撮ることだけに特化した調整を行いました。完成したレンズは、

ワイドコンバーターレンズがなくても、以前の観測に使用したレンズより5・4度広く撮影でき、流星観測に必要なレンズの細かな調整を宇宙で行う必要がないものに仕上がりました。大きなプロジェクトへの協力だったので、3回目の流星観測カメラ打ち上げが成功した時より、流星観測が成功した時の方が達成感があったと思います。

○中野市にコシナのレンズあり

中野市ふるさと納税の返礼品に当社のカメラレンズが加わりました。当社のレンズは、ほとんどの部品が社内で製造され、手作業で組み立てています。高性能の光学製品を作る上で、まじめで地道な作業を行うことができる北信地域の職人気質に当社製品は支えられています。ふるさと納税を通し、中野市を知ってもらい力になればいいと思います。

広報クイズ

■今月のプレゼント

「武田忠善アンサンブル記念コンサートチケット」
…10人

問題

信州なかの音楽祭2016の公募出演団体は何団体でしょう？
「●●団体」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 10月21日(金)必着
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 訓練でも使用した長野県消防防災ヘリコプターの名前は何？
答え・・・「アルプス」

住所・氏名・年齢・電話番号・世帯主

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.25

町田久美子さん
からのご紹介



○自己紹介

シャインマスカットなどブドウを中心とした農家をしています。生まれ育った北海道も農業が身近にありました。社会人になり、横浜市で公務員をしていたので、農業から離れていましたが、妻の実家である中野市に来て、仕事を続けながら、農業をすることになりました。

退職後、農業に専念するようになりました。私は果物が大好きなので、秋の収穫を楽しみに農作業をしています。また、農業はやればやっただけ成果がでるので、やりがいを感じます。

趣味は、カラオケやゴルフ、そば打ちなどをしています。ゴルフは練習場で、知り合いに打つ時のフォー



ほんだ 多 剛 さん (栗和田)

○おらほの自慢
中野市を一望できる箱山の頂上が良いと思います。登山道を区で春と秋の2回整備しています。電柵の反対側は、イノシシやカモシカが出て危険ですが、私の足でも休憩を入れて1時間程度で登れるハイキングに おすすめの山です。

○元気の秘訣

昔からストレスを感じない方だと思えます。また、趣味でいろいろなことをしているので、仲間との会話や仕事のことを忘れて息抜きすることとで気を楽にできていると思います。

ムを見てもらい、指摘してもらおうなど、仲間と会話をしながら技術を磨いています。また、ゴルフ場で白球が飛んでいく時に爽快感を覚え



▲本多さんのそば打ち道具

ます。そば打ちは、約5年前から、妻に教えてもらいながらやっています。そば粉は十割で、仲間と打ったそばを区のイベントでふるまっています。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 37



信州なかの音楽祭2016

いよいよ実りの秋、芸術の秋10月を迎えた。今年も、昨年までアンサンブルフェスとして姉妹都市や近隣市町村の音楽団体を招いて実施していた音楽祭を、より市民の皆さんと

今も準備に暇がない。市民の皆さんが主体となって、みんなで作る音楽祭として、初めての取り組みであり、演奏する人、歌う人、そして聴く人、それぞれが一緒にこの音楽祭を創り上げて欲しい。

楽しめる、中野市の街中が音楽で溢れる新しい音楽祭「信州なかの音楽祭2016」として開催する。中野市は中山晋平、高野辰之、久石譲先生を育んだ土地であり、音楽文化の営みが豊かなまちである。また、音楽のみならず美術などの文化芸術でも多くの作家を輩出している土地である。こうした豊かな文化は中野市の大切な資産であり、中野市の将来に向けての活性化の資源でもある。

演劇ではよく「舞台は演者と客席の観衆が一体となって作るものだ」と言われている。また、阿波踊りでは、「踊るあほうに見るあほう」とやはり一体となることによる楽しさを唄っている。この音楽祭もこうした市民の皆さんの一体感が醸し出されることを願ってやまない。さて、今回の音楽祭を企画するにあたり、

市民の皆さんが望む文化芸術のハード面の拠点の整備は私にとっても重要な課題である。文化芸術を通じた豊かな暮らしのための施策も重要だ。今年の音楽祭は中野市出身で国立音楽大学学長の武田忠善先生によるコンサートを中心に、中学生吹奏楽部の公開講座や市内各所で様々なコンサート企画が盛りだくさんだ。音楽祭は有志による実行委員会組織により、ミーティングを重ね、

武田先生にコンサートの開催をお願いした理由は、武田先生が中野市の出身であることに加え、一流の音楽を多くの方に聞いていただきたいの思いからである。クラリネット演奏では日本の第一人者の先生に、今回は中学生に指導をしていただくほか、コンサートでは本物の音色の素晴らしさも市民の皆さんに味わっていただきたいと思っている。深まる秋の澄んだ空気の中、奏でられる曲の調べが大いに心を豊かにしていただけるものと期待している。皆さんとともに2日間音楽を楽しみたい。